

オホーツク地方におけるゴイサギの越冬初記録

嶋崎太郎

東京農業大学生産学部生物生産学科植物資源・生産管理学研究室 〒099-2423 北海道網走市八坂196

ゴイサギ *Nycticorax nycticorax* は、日本では本州から九州にかけて繁殖し、北海道には生息しないとされていた(高野 1982, 叶内ほか 1998)。しかし近年、北海道でも札幌市や江別市などの道央圏において繁殖や越冬の観察例が度々報告されている。繁殖記録には札幌中央区1995年 6月(北海道新聞1995年 6月24日)、1996年 6月(北海道新聞1996 6月23日)、1999年 4月(北海道新聞1999年 4月27日)などがある。また、越冬記録には札幌1988年 2月、江別1994年10月~1995年 2月、札幌北区2000年 3月(藤巻 2000)などがあり、生息分布域を北へと広げつつあることが推察される。

オホーツク地方においては、2000年 5月に女満別町網走湖畔のアオサギ *Ardea cinerea* のコロニー内で営巣している複数のつがいが観察され(川崎 2001)、2001年と2002年にも営巣が確認されている(川崎 私信)。しかし、これまでに越冬は確認されていなかった。筆者は2002年 2月 5日に網走市においてゴイサギ成鳥 1羽を確認した。これは当地方における本種の初越冬記録であり、日本での最北の越冬記録となるのでここに報告する。

観察地は網走市にある呼人探鳥遊歩道(43° 58' N, 144° 13' E)である。ここは網走湖に突き出した形をした呼人半島の付け根から先端部に向かって伸びている遊歩道である。半島の付け根にある呼人市街側の入り口から500m程にはミズバショウ *Lysichiton camtschatcense* などが群生する湿地帯が分布している。そこから先は半島先端部までミズナラ *Quercus mongolica crispula*, シラカンバ *Betula platyphylla* var. *japonica*, ハルニレ *Ulmus davidiana* var. *japonica* などの広葉樹と、アカトドマツ *Abies sachalinensis* などの針葉樹が混生している針広混交林が分布している。入り口から約1km地点より先は網走湖のすぐ脇を通るように遊歩道が半島先端部まで続いている。

筆者が本個体を確認したのは2002年 2月 5日14時頃である。本個体は呼人市街側入り口付近の湿地帯の枯れ草の陰にいたようだが、筆者の接近により飛び立ち、近くの木のとまった。本個体は木のとまったあと 5分ほどじっと静止していたため、その間に筆者は 8倍の双眼鏡および 20倍の望遠鏡をもちいて観察し、ゴイサギの成鳥であることを確認した。その後林の奥に飛去したため、見失った。

この後、筆者は何度か同地を訪れたが本種を確認することはできなかった。しかし、同17日になっ

2003年11月13日 受理

キーワード: 越冬, オホーツク, ゴイサギ

て日本野鳥の会オホーツク支部会員の佐藤満氏によって同地において再び確認された。また、同会員である斎藤喜一郎氏による付近の住民からの聞き取りによると、遊歩道の呼人市街側の入り口から南南東に1kmほどにあるJR呼人駅付近で、鉄道林をめぐらにしていたゴイサギが1羽いたという。この個体は成鳥で、12月頃から3月頃までのあいだ、ほぼ毎日のように鉄道林の落葉樹をめぐらにしていた、とのことであった。

本件個体と佐藤氏が確認した個体、そして呼人駅付近をめぐらにしていた個体は全て成鳥であり、単独で行動していたことや観察された場所の位置関係などから、おそらく同一個体であると思われる。呼人周辺で越冬していたものと考えられる。

当地方は北海道の中でも冬が厳しく、河川や湖沼のほぼ全域が結氷し、本種の越冬には適していないと思われる。しかしながら、この遊歩道の入り口付近の湿地帯を流れる小川には付近で湧き出している温泉が流れ込んでおり、厳冬期でも凍結しない。そのため、厳冬期でも魚や水生昆虫などが生息している。本個体はそれらを食物にしていたものと考えられる。

今回の記録は、北海道でのゴイサギの越冬記録としては4例目となるが、その中でも最も北の記録となる。今まで本種の越冬は札幌や江別などの道央圏だけでしか記録されていなかった(藤巻2000)。しかし、今回の記録ではさらに気候の厳しい網走でも本種の越冬が可能であることが確認された。本個体が当地方で越冬ができた理由としては、上述のように湿地帯への温泉の流入によって厳冬期でも凍結せず、食物を取ることが可能であったことがあげられる。また、今までの越冬記録はすべて繁殖地の近くで確認されており、そこで繁殖した個体が越冬した可能性が高い。今回の記録でも、観察地である呼人探鳥遊歩道から南南西に4kmほどのところに本種が繁殖していた網走湖畔のアオサギ集団繁殖地があり、本個体はそこから飛来した可能性がある。これらのことから考えると、ゴイサギが当地で今後も越冬する可能性がある。

最後に、本報告をまとめるにあたり、貴重な文献および情報を提供していただいた日本野鳥の会オホーツク支部の川崎康弘氏と斎藤喜一郎氏に厚くお礼申し上げる。

引用文献

- 藤巻裕蔵. 2000. 北海道鳥類目録改訂第2版. 帯広畜産大学野生動物管理学研究室, 帯広市.
- 叶内拓也・安部直哉・上田秀雄. 1998. 日本の野鳥. 山と溪谷社, 東京.
- 川崎康弘. 2001. 網走支庁管内鳥類目録ー北海道・オホーツク圏で確認された鳥類ー. 知床博物館研究報告 22: 55-68.
- 高野伸二. 1982. フィールドガイド日本の野鳥. 日本野鳥の会, 東京.

Wintering record of a Black-crowned Night Heron at Abashiri Lake, northern Japan

Taro Shimazaki

Faculty of Bioindustry, Tokyo University of Agriculture, 196 Yasaka, Abashiri, Hokkaido 099-2423, Japan

A wintering Black-crowned Night Heron *Nycticorax nycticorax* was observed at Abashiri Lake (43° 58' N, 144° 13' E) northern Japan during December 2001 to March 2002. This is the northernmost wintering record in Japan. The lake was frozen and the rivers and sea around the lake were also covered by ice. However, there was an unfrozen stream with fish because water from a hot spring was streaming in. This unfrozen stream enabled the Night Heron to winter at Abashiri Lake.

Key words: Black-crowned Night Heron, Hokkaido, Nycticorax nycticorax, wintering record